

- \* 「**ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。**」（ヨハネ1：14）  
 クリスマスとは、神が人となって地上に来られたことをお祝いすることである。神が人に変わったのではなく、まことの神のまま人間の肉体をもって生まれて来られた。イエス・キリストは神であり、同時に人であった。しかし、キリストは神ではなく、ただの人であったとか、神が造られた最初の被造物であるとか、また、人ではなく、人間の目にそのように見えただけというような間違っただけの考えが当時から今に至るまで次々起こってきている。
- \* 神が人となられた最大の目的は、十字架で死んで私たちを罪から贖うためであった。また、私たちが神とはどのような方かをよりはっきりと知るためであった。「**いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。**」（1：18）  
 神は目に見えないものであり、それまで神を見たものは誰もいなかった。しかし、イエスの降誕によって生きた神としての主イエスの姿を見、声を聞き、行動を目の当りにすることができるようになった。今私たちは、その記録を聖書によって知ることができる。
- \* 「**キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。**」（ピリピ2：6～7）  
 元は天におられたキリストが地上に降りて来られただけでも驚くべきことだが、その場所はベツレヘムという寒村の家畜小屋。飼料おけに寝かされた。貧しい人や病の人を憐れんで癒し、差別を受けていた異邦人や罪人と呼ばれていた人達とも分け隔てなく一緒に食事までされた。仕えられるべき方が弟子の足を洗い、人に仕える人として生きられた。そして、十字架の死までも受け入れられたのである。「**主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。**」（ヘブル2：11）
- \* 「**私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。**」（1：14）  
 「**私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。**」（1：16）  
 「恵み」とは、神から無償でいただくもの。イエス・キリストを信じた者には特別な恵みが与えられる。第一は「救い」の恵み。第二は、神から来るすべてのものは良いものであると考えることができることである。いつも感謝の生活を送ることができる「恵み」である。また、イエス・キリストは「まこと」すなわち、偽りがなく、常に正しい方。この方のご降誕をこころから喜び、お祝いしたい。